

報告日： 年 月 日 実施者名：

## 見守りチェックシート【基本編】

【見守りの対象者】

名前	年齢	才
住所	電話番号	
世帯の状況	一人暮らし・高齢夫婦・子と2人の世帯・家族と同居・( )	
身体不自由	あれば具体的に：	
緊急連絡先	あり(高齢者との関係)：なし・わからない	

【チェック項目】

※あてはまる番号に○をつけてください

- 1 ポストに郵便、新聞がたまっている  
カーテンや雨戸が開まりっぱなし 1 はい 2 いいえ 3 わからない
- 2 家や家の周囲が異常に散らかっている 1 はい 2 いいえ 3 わからない
- 3 夜遅くなくても家の明かりがつかない 1 はい 2 いいえ 3 わからない
- 4 持病が悪そうだが、通院している様子がでない 1 はい 2 いいえ 3 わからない
- 5 どなり声、泣き声がする。不自然な爆・アザがある 1 はい 2 いいえ 3 わからない
- 6 最近姿を見ない。物音がしない 1 はい 2 いいえ 3 わからない
- 7 不審者が入り込んでいる 1 はい 2 いいえ 3 わからない
- 8 無気力又は無表情、意欲・生気が感じられない 1 はい 2 いいえ 3 わからない
- 9 近所の人のトラブルが多くなった。 1 はい 2 いいえ 3 わからない
- 10 服装が以前よりも乱れている 1 はい 2 いいえ 3 わからない
- 11 ガス、暖房の消し忘れなど火の不始末が増えている 1 はい 2 いいえ 3 わからない
- 12 会話が通じにくいと感じる 1 はい 2 いいえ 3 わからない

※1～12番の はい に1つでも○がついた場合、別紙【詳細編】A表をチェックしてください。

※8番の はい に○がついた場合、別紙【詳細編】B表をチェックしてください。

※7～12番の はい に1つでも○がついた場合、別紙【詳細編】C表をチェックしてください。

この方について気になっていいることを書いてください。

チェックシートを記入後、あなたは今後どのように対応したいと考えますか。  
あてはまるものに、1つに○をつけてください。

- [ ] 普段どおり、あいさつや声をかける  
 [ ] 訪問したり、電話をかけて様子を見る  
 [ ] 地域包括支援センターに相談  
 [ ] その他(具体的に書いてください)

月 日までに、地域包括支援センターに本チェックシートをお渡し下さい。

## 見守りチェックシートの使い方

- ◆近くに住む気になる高齢者を対象に、チェックシートを使って見守りをしてみましょう。
- ◆チェックする際は、今の状況をチェックしてください。
- ◆チェック項目にあてはまるものに○を付けます。
- ◆チェックシートを記入後、あなたは今後どのように対応したいと考えますか。あてはまるものに1つ○を付けてください。
- ◆記入後は、月 日までに、地域包括支援センターに本チェックシートをお渡し下さい。

## 見守りチェックシート【詳細編】

- わかる範囲内で、今の状況をチェックしてください。
- あてはまる番号に○を付けてください。

### A 観察と会話によるチェック項目

1	自分で家内を移動できない (杖、車椅子含む)	1	はい	2	いいえ	3	わからない
2	転倒や事故などにあった	1	はい	2	いいえ	3	わからない
3	閉じこもり(外出週1回以下)	1	はい	2	いいえ	3	わからない
4	買い物ができない	1	はい	2	いいえ	3	わからない
5	最近頼りになる家族の死(2カ月間)に遭遇	1	はい	2	いいえ	3	わからない
6	最近転居、長期入院から退院した	1	はい	2	いいえ	3	わからない
7	同居でも毎日本人は弁当購入	1	はい	2	いいえ	3	わからない
8	屋外に長時間1人でのいる	1	はい	2	いいえ	3	わからない
9	食事が摂れていない	1	はい	2	いいえ	3	わからない
10	家事が出来ていない	1	はい	2	いいえ	3	わからない
11	経済的に苦しい (収入なし、家族が失職・金銭搾取等されている)	1	はい	2	いいえ	3	わからない
12	必要な福祉サービスを中断・利用していない	1	はい	2	いいえ	3	わからない
13	家族との接触が少ない (居間同居、同居家族と必要最低限の会話)	1	はい	2	いいえ	3	わからない
14	正月3が日は誰かと過ごしましたか	1	はい	2	いいえ	3	わからない
15	眠れない、不安や心配事などがありますか	1	はい	2	いいえ	3	わからない

※15番の はい に○がついた場合、下欄のB表をチェックしてください。

### B 「うつ」状態の早期発見

1	毎日の生活が充実していますか	1	はい	2	いいえ
2	これまで楽しんでやれていたことが今も楽しんでできていますか	1	はい	2	いいえ
3	以前は楽にできていたことが、今ではおっくうに感じられますか	1	はい	2	いいえ
4	自分は役に立つ人間だと考えることができますか	1	はい	2	いいえ
5	わけもなく疲れたような感じがしますか	1	はい	2	いいえ

➤ 網掛け欄の○の数で判断・対応します。

- 個→普段どおり、あいさつや声をかける
- 1個→訪問したり、電話をかけて様子を見る
- 2個以上→地域包括支援センターに相談

### C 認知症が疑われるサイン

1	服装や髪の手入れにかまわなくなった	1	はい	2	いいえ	3	わからない
2	よく道に迷い帰宅できない、 歩き回り不審がられる	1	はい	2	いいえ	3	わからない
3	鍵などの大事なものの置き忘れ、 しまい忘れが目立つ	1	はい	2	いいえ	3	わからない
4	日時をよく間違え、約束を全く忘れている ゴミの日をよく間違え	1	はい	2	いいえ	3	わからない
5	計算ができない (財布が小銭で一杯、礼のみで支払う)	1	はい	2	いいえ	3	わからない
6	同じことを何度も言ったり、聞いたりする 話したばかりの内容を忘れる	1	はい	2	いいえ	3	わからない
7	通帳・財布などを盗まれたと騒ぐ	1	はい	2	いいえ	3	わからない
8	夜中に平気で外出・活動する 近隣のチャイムをよく鳴らす	1	はい	2	いいえ	3	わからない
9	ゴミの出し方が分からない、 ゴミの口がきつちり結べない	1	はい	2	いいえ	3	わからない
10	入浴を極端に嫌がる・身体の汚れが目立つ	1	はい	2	いいえ	3	わからない
11	同じ食品・品物を何度も買っている	1	はい	2	いいえ	3	わからない
12	怒りっぽくなった	1	はい	2	いいえ	3	わからない
13	薬の飲み忘れ、飲み過ぎが目立つ	1	はい	2	いいえ	3	わからない
14	腐ったものと新鮮なもの区別がつかない	1	はい	2	いいえ	3	わからない
15	最近の出来事が思い出せない	1	はい	2	いいえ	3	わからない

その他、気になることがありましたらご記入ください。

報告日： 年 月 日 実施者名： \_\_\_\_\_

見守りチェックシート

見守り対象者	名前	住所	年齢	性別
			電話番号	
		一人暮らし・高齢夫婦・子と2人の世帯・家族と同居・( )		
		あれば具体的に： _____		
		緊急連絡先 あり(高齢者との関係： )・なし・わからない		
		経済状態 気になることあり(収入なし、家族の失職・金銭搾取等、その他) _____		
		移動 歩行・杖・車椅子・その他( ) ↳ ( )		

【チェック項目】

生活の様子	1	ポストに郵便、新聞がたまっている カーテン・雨戸が開まりっぱなし、家や家周回の散らかり	1	はい	2	いいえ	3	わからない
	2	夜遅くなくても家の明かりがつかない	1	はい	2	いいえ	3	わからない
	3	持病が悪そうだが、通院している様子がでない	1	はい	2	いいえ	3	わからない
	4	どなり声、泣き声がする。不自然な構・アザがある	1	はい	2	いいえ	3	わからない
	5	最近姿を見ない。物音がしない	1	はい	2	いいえ	3	わからない
	6	無気力又は無表情、意欲・生気が感じられない	1	はい	2	いいえ	3	わからない
	7	服装が以前よりも乱れている	1	はい	2	いいえ	3	わからない
	8	会話が通じにくいと感じる	1	はい	2	いいえ	3	わからない
	9	自分で家内を移動できない(杖・車椅子を含む)	1	はい	2	いいえ	3	わからない
	10	転倒や事故などにあった	1	はい	2	いいえ	3	わからない
	11	閉じこもり(外出週1回以下)、買物ができない	1	はい	2	いいえ	3	わからない
	12	最近頼りになる家族の死(2カ月間)に遭遇	1	はい	2	いいえ	3	わからない
	13	最近転居、長期入院から退院した	1	はい	2	いいえ	3	わからない
	14	同居でも毎日日本人は弁当購入	1	はい	2	いいえ	3	わからない
	15	屋外に長時間1人でのいる	1	はい	2	いいえ	3	わからない
	16	食事が摂れていない、家事ができていない	1	はい	2	いいえ	3	わからない
	17	家事が出来ていない	1	はい	2	いいえ	3	わからない
	18	必要な福祉サービスを中断・利用していない	1	はい	2	いいえ	3	わからない
	19	家族との接触が少ない (屋間同居、同居家族と必要最低限の会話)	1	はい	2	いいえ	3	わからない
	20	正月3が日は誰とも過ごしてない、一人だった	1	はい	2	いいえ	3	わからない
	21	眠れない、不安や心配事などがありますか	1	はい	2	いいえ	3	わからない

認知症を疑うサイン	22	服装や髪の手入れにかまわなくなつた、入浴を極端に嫌がる・身体の汚れが目立つ	1	はい	2	いいえ	3	わからない
	23	よく道に迷い帰宅できない、歩き回り不審がられる	1	はい	2	いいえ	3	わからない
	24	鍵などの大事なものの置き忘れ、しまい忘れが目立つ	1	はい	2	いいえ	3	わからない
	25	ガス、暖房の消し忘れなど火の始末が増えている	1	はい	2	いいえ	3	わからない
	26	日時を間違え、約束を忘れていない	1	はい	2	いいえ	3	わからない
	27	計算ができない(財布が1万円、札のみで支払う)	1	はい	2	いいえ	3	わからない
	28	通帳・財布などを盗まれたと騒ぐ	1	はい	2	いいえ	3	わからない
	29	夜中に平気で外出・活動する	1	はい	2	いいえ	3	わからない
	30	近隣のチャイムをよく鳴らす、トラブルメーカー	1	はい	2	いいえ	3	わからない
	31	ゴミの出し方が分からない、ゴミの口がきつちり詰まると同じ食品・品物を何度も買っている	1	はい	2	いいえ	3	わからない
	32	腐ったものと新鮮なものとの区別がつかない	1	はい	2	いいえ	3	わからない
	33	毎日の生活が充実していますか	1	はい	2	いいえ	3	わからない
	34	これまで楽しんでやれていたことが今も楽しんでできていますか	1	はい	2	いいえ	3	わからない
	35	以前は楽しんでできていたことが、今ではおっくうに感じられますか	1	はい	2	いいえ	3	わからない
	36	自分は役に立つ人間だと考えることができますか	1	はい	2	いいえ	3	わからない
	37	わけもなく疲れたような感じがしますか	1	はい	2	いいえ	3	わからない

\* 特定健康調査チェック項目より抜粋

【チェック項目の対応】

0個→普段どおり、あいさつや声をかける、1個→訪問したり、電話をかけて様子を見る  
2個以上→地域包括支援センターに相談

※チェック項目のうち、1つでも「はい」に○がついた人は、一応あんしんすこやかセンターにご相談下さい。

チェックシートを記入後、あなたは今後どのように対応したいと考えますか。  
あてはまるものに、1つに○をつけてください。

- [ ] 普段どおり、あいさつや声をかける (頻度 日に 1回)
- [ ] 訪問したり、電話をかけて様子を見る (頻度 日に 1回)
- [ ] 地域包括支援センターに相談

この方について気になることをお書きください。

月 日までに、地域包括支援センターに本チェックシートをお渡し下さい。  
ご協力、ありがとうございます。

# 厚生労働科学研究費補助金

## 政策科学総合研究事業

### 高齢者等のセルフ・ネグレクト(自己放任)を防ぐ地域見守り組織のあり方と 見守り基準に関する研究

#### 〈大阪府泉南市六尾の郷地域包括支援センター地区〉 —平成21年度継続調査(2年目)報告—

#### 目 次

研究組織	1
1 研究目的	2
2 研究方法	2
1) 第1回組織育成研修プログラムの内容と方法	
2) 第2回組織育成研修プログラムの内容と方法	
3 倫理的配慮	8
4 調査・分析方法	8
5 研究結果	8
1) 第1回組織育成研修プログラムのプロセス	
2) 見守りチェックシート(基本編)の試行状況	
3) 第2回組織育成研修プログラムのプロセス	
6 まとめ	16
1) 組織育成研修プログラムの実施結果と課題	
2) 見守りチェックシートの試行状況と課題	
7 本年度の結論	17

平成21年度 分担研究報告書《NO 1》  
研究分担者 河野 あゆみ

平成22(2010)年 3月

## 研究組織

### <本報告書作成者>

分担研究者：河野あゆみ(大阪市立大学大学院看護学研究科 教授)

研究協力者：藤田俱子 (大阪市立大学大学院看護学研究科)

杉山美雪 (社会福祉法人長寿会特別養護老人ホームコミュニティソーシャルワーカー)

清本好美 (泉南市地域包括支援センター六尾の郷介護支援専門員)

### 研究組織構成メンバー

研究代表者：津村智恵子 (甲南女子大学看護リハビリテーション学部 学部長)

分担研究者：河野あゆみ(大阪市立大学医学部看護学研究科 教授)

和泉京子 (大阪府立大学看護学部看護学研究科 准教授)

臼井キミカ (大阪市立大学医学部看護学研究科 教授)

大井美紀 (甲南女子大学看護リハビリテーション学部 准教授)

柘田聖子 (甲南女子大学看護リハビリテーション学部 助教)

鍛冶葉子 (甲南女子大学看護リハビリテーション学部 助教)

前原なおみ (甲南女子大学看護リハビリテーション学部 助教)

上村聡子 (甲南女子大学看護リハビリテーション学部 助教)

金谷志子 (大阪市立大学医学部看護学研究科 講師)

川井太加子 (桃山学院大学社会福祉学部社会福祉学科 准教授)

山本美輪 ( 明治国際医療大学 講師)

## 研究要旨

本研究では、泉南市六尾の郷地域包括支援センター担当砂川地区の見守りネットワークメンバーの住民 18～23 人に対して、地域高齢者への見守りを行うことの重要性を認識し、その見守り基準と方法について考えてもらうことをねらった組織育成研修プログラムを2回実施し、そのプロセスを記述した。各研修プログラムにおけるグループワークや発表での対象者の発言内容について質的に分析した結果、対象者は見守り活動の必要性と見守り組織の具体的な活動内容を考えることができていた。また、本研究班で試験的に作成した見守りチェックシート基本編を対象者に活用してもらった結果、38 事例のチェックシートが回収され、地域包括支援センタースタッフと研究者で検討した結果、そのうち3 事例については地域包括支援センターで追跡していくこととなった。以上より、本研修のプログラムは、住民の見守り意識が向上し、一定の有用性があると考えられる。今後、住民が研修で考えた内容がどのように見守り活動につながるのか、検討することが課題である。

## 1 研究目的

平成20年度の研究報告より、地域住民が行う高齢者のための見守り基準や内容を明らかにする必要性が示された。

そこで、平成21年度は泉南市六尾の郷地域包括支援センター担当砂川地区高齢者見守りネットワークを構成している住民を対象にして、①地域の高齢者とその家族の見守りを行うことの重要性を認識することができる、②砂川地区での高齢者とその家族の見守りを行うための基準内容と方法を考えることができることを目的とした研修プログラムを作成し、実施した。

本研究報告ではその研修プログラムのプロセスを記述し、今後の地域見守り組織を発展させる際の介入方法の基礎資料とする。

## 2 研究方法

### 1) 第1回組織育成研修プログラムの内容と方法

#### (1) 対象者

大阪府泉南市六尾の郷地域包括支援センター担当砂川地区高齢者見守りネットワークを構成している住民に対し、組織育成研修プログラムを2回実施した。

第1回研修プログラムは、平成21年9月29日に砂川地区集会所にて実施した。対象者は高齢者見守りネットワークを構成している住民が23人（男性13人、女性10人）と六尾の郷地域包括支援センターならびに泉南市内の保健医療福祉職が10人（男性5人、女性5人）であった。

#### (2) プログラム内容

第1回研修プログラムのねらいは、参加する住民が高齢者見守り基準を使用するために、高齢者への見守りの必要性について、グループワークを通して改めて認識することができることとした。

第1回研修プログラムの流れは、表1のとおりであり、2時間で実施した。第1回研修プログラムは、介護負担が大きな原因となって起きた親子心中事件についてのDVD鑑賞をもとに実施したグループワー

クと見守りチェックシートの使用方法についての説明から構成されている。

表1 第1回研修プログラムの構成

時間	内容
10分	オリエンテーション
15分	DVD鑑賞「介護殺人：防げなかった親子心中」
25分	グループワーク1：話し合いと発表
35分	グループワーク2：話し合いと発表
25分	見守りチェックシートの使い方
10分	全体のまとめ

グループワークの内容は、表2に示す。まず、DVDで示した事例がなぜ周囲の人に助けを求められなかったのかについて住民同士で話し合うこととした。引き続き、隣人グループと見守りグループの立場にわかれ、事例が隣人であったらどう対応するか、見守りグループであったらどう対応するかについて、話し合ってもらい、それぞれの話し合いの後に全体で発表を行い、研究者がフィードバックを行った。なお、グループワーク時には、1グループあたり、住民5～6人に保健医療福祉職が1～2人のグループ編成を行い、保健医療福祉職がファシリテーター役となった。

さらに、本研究班で試験的に作成した見守りチェックシート基本編（表3）の活用方法を対象者に説明し、近隣の高齢者5人程度の生活状況をチェックシートにしたがって把握してもらい、10月13日までに地域包括支援センターに提出してもらうように依頼した。見守りチェックシート基本編では、12項目のチェック項目を住民に確認してもらい、最終的に住民自身が該当する高齢者への対応として、「普段どおり、挨拶や声をかける」、「訪問したり、電話をかけて様子を見る」、「地域包括支援センターに相談する」などの中から選んでもらうことにした。

なお、見守りチェックシート基本編の使い方について、住民の理解を促すために、地域包括支援センターが過去に実際にかかわった事例で、わかりやすく一部、変更を加えた事例（表4）を示し、説明時に見守りチェックシートの各項目にあてはまると考えられる部分を住民とともに確認した。

## 表2 第1回研修プログラムグループワーク内容

---

### 【介護殺人：防げなかった親子心中の紹介】

父親が亡くなって10年あまり、一人息子のK被告は工場で働きながら一人で献身的に母親の介護を努めていました。近所の方は、母親の手を引いて散歩する姿や一緒に買い物する姿、おむつを抱えて買い物するK被告の姿をよく見かけていました。

ある日、母親が急に倒れ、緊急入院後認知症が進行し、退院してから母親が徘徊することが多くなりました。K被告は仕事でも母親を保護した警察から呼び出されることもしばしば、ありました。

しかし、近所の方はK被告が困っていることを全く知りませんでした。K被告の母親は地域の民生委員の支援対象に入っておらず、民生委員が関わることもありませんでした。

介護保険サービスを利用するにも経済的に苦しく、K被告は認知症の母親の介護で一睡もできないことが続きました。介護に追われ仕事ができなくなりましたが、生活保護の申請相談では十分な対応をしてもらえず、K被告は申請ができないと思い込んだ後、家賃が払えず食べるものもなくなり、母親との心中を決心しました。

「NHK クローズアップ現代 防げなかった悲劇：2006年6月28日放送」より

---

### 【グループワーク1】

なぜ、K被告は周囲の人に助けを求められなかったのでしょうか。

K被告の気持ちを考えてみましょう。(10分)

---

### 【グループワーク2】

砂川地区にK被告が暮らしていたとしたらどのように関わりますか。

「K被告の隣人」または「地域の見守りネットワークメンバー」の立場でどうしたらよかったのか、どんなことができるのかを考えてみましょう。(15分)

#### 立場 その1 (隣人グループ)

もし、あなたがK被告の隣人だったらどうしますか。

- ・緊急時どうしますか。
- ・普段はどうしますか。
- ・地域でどのような取り組みをしたらいいでしょうか。

#### 立場 その2 (見守りグループ)

もし、あなたがK被告の地域の見守りネットワークメンバーだったらどうしますか。

- ・緊急時どうしますか。
- ・普段はどうしますか。
- ・地域でどのような取り組みをしたらいいでしょうか。



表3 見守りチェックシート(基本編)

【チェック項目】

(1)	ポストに郵便、新聞がたまっている。 カーテンや雨戸が閉まりっぱなし。	1 はい	2 いいえ	3 わからない
(2)	家や家の周囲が異常に散らかっている。	1 はい	2 いいえ	3 わからない
(3)	夜遅くなっても家の明かりがつかない。	1 はい	2 いいえ	3 わからない
(4)	持病が悪そうだが、通院している様子がない。	1 はい	2 いいえ	3 わからない
(5)	どなり声、泣き声がする。不自然な傷・アザがある。	1 はい	2 いいえ	3 わからない
(6)	最近姿を見ない。物音がしない。	1 はい	2 いいえ	3 わからない
(7)	不審者が出入りしている。	1 はい	2 いいえ	3 わからない
(8)	無気力又は無表情、意欲・生気が感じられない。	1 はい	2 いいえ	3 わからない
(9)	近所の人とのトラブルが多くなった。	1 はい	2 いいえ	3 わからない
(10)	服装が以前よりも乱れている。	1 はい	2 いいえ	3 わからない
(11)	ガス、暖房の消し忘れなど火の不始末が増えている。	1 はい	2 いいえ	3 わからない
(12)	会話が通じにくいと感じる。	1 はい	2 いいえ	3 わからない

【チェック項目を記入後あなたは今後どのように対応したいと考えますか。】

該当するものに○を1つ、つけて下さい。

- |     |                    |     |
|-----|--------------------|-----|
| (1) | 普段どおり、あいさつや声をかける。  | ( ) |
| (2) | 訪問したり、電話をかけて様子を見る。 | ( ) |
| (3) | 地域包括支援センターに相談する。   | ( ) |
| (4) | その他                | ( ) |

表4 見守りチェックシート説明のための事例

【砂川家の概要】

75歳になるハナさんは夫を5年前に脳梗塞で亡くし、43歳の一人息子の太郎さんとの二人暮らしです。太郎さんの仕事は長距離トラックの運転手で、家を不在にすることも多く、家のこと一切をハナさんが行っていました。以前は、ハナさんは仕事をしていたため、近所付き合いは挨拶程度で、退職してから後も特にご近所の集まりや奉仕活動に参加するタイプではなく、親しい方もなく、近所付き合いはありません。

【最近のご本人さんの様子】

体の調子は、1年前にぎっくり腰で2ヶ月ほど入院していましたが、退院してからは寝たり起きたりの生活で、通院している様子はありません(4)。また、それまできれいに手入れされていた庭木も荒れ放題になっています(2)。

家の雨戸もほとんど閉まっており(1)、以前はきちんと出していたゴミも収集日を間違っていたり、分別ができていなかったり口がきちんと閉まっていないときもあります。

【ご近所の人の声】

「庭木が荒れ始めたな・・・と思いだしたころから、姿を見かけても伏し目がちに目をそらす態度(8)で、声も掛けづらくなってきました。服装もいつも同じ格好で、服も身体も薄汚れた印象を受けました(10)。以前はカートを引いて買い物に出かけるところを毎日のように見かけていましたが、最近はあまり見かけません(6)。」

「夜遅くなっても明かりがついていないことがあり(3)、息子さんの帰宅がいつなのか、不規則で近所ではわかりません。最近、息子さんがいらっしゃるときは大きな声で叱責しているような声が聞こえてくる(5)ことがあり、気になっています。」

【班長さんの声】

「日頃より気になっていたので、買い物の手伝いでもと思い家に行って声をかけてみたんですが、ドア越しに断られ、その際ご本人さんが意味不明瞭な事を言っておられました(12)。回覧板も砂川さん宅で止まってしまい、お隣に回らないためご近所から苦情を言われる事もしばしばです(9)。自治会費も、息子の太郎さんがいらっしゃらない時にはお金のことはわからないとおっしゃって、滞りがちです。」

下線部分は見守りチェック項目に該当すると考えられる部分であり、( )内の番号はチェック項目の番号である。

## 2) 第2回組織育成研修プログラムの内容と方法

### (1) 対象者

第2回研修プログラムは平成21年12月15日に第1回と同じ集会所にて実施した。対象者は、原則として、第1回研修プログラムに参加した者である。第2回研修プログラムの参加者は、住民が18人（男性8人、女性10人）と六尾の郷地域包括支援センターならびに泉南市内の保健医療福祉職が8人（男性5人、女性3人）であった。

## (2)プログラム内容

第2回研修プログラムのねらいは、参加する住民が自分の地区における高齢者見守り活動の現状や基準の活用方法を理解し、より良い見守り活動を行うための目標を自ら考えることとした。

第2回研修プログラムも、表5のとおり、2時間で実施した。第2回研修プログラムは、第1回プログラムで配布した見守りチェックシートの回収状況を主な内容としたミニ講義を行い、続けてグループワークを行った。ミニ講義では、見守りチェックシート回収状況の概要を研究者が説明し、地域包括支援センターで対応した事例のプロセスを地域包括支援センターのスタッフが説明を行った。

グループワークの内容は、表6に示す。まず、グループワーク1では、ミニ講義を聞いて感じたこと、自分が見守られる立場であったらどうしてほしいと思うかということについて、住民同士で話し合った。引き続き、見守り基準をより良く活用するために、見守りメンバーに何ができるかということテーマにグループワーク2を実施した。その際には、表6に示すとおり、「○○○○のために見守りネットワークメンバーが○○○○する」というフォーマットに沿った活動目標をグループで決めてもらうこととし、対象者がより理解しやすいようにフォーマットの例を示した。

第2回研修プログラムでも、第1回と同様のグループ編成を行い、話し合いの後に全体で発表を行い、研究者がフィードバックを行った。

表5 第2回研修プログラムの構成

時間	内容
10分	オリエンテーション
30分	ミニ講義「見守り活動の現状を知ろう」
30分	グループワーク1：話し合いと発表
35分	グループワーク2：話し合いと発表
15分	全体のまとめ

表6 第2回研修プログラムグループワーク内容

### 【グループワーク1】

砂川地区の見守り活動の現状についてグループで話し合いましょう。(15分)

- ① ミニ講義を聞いて感じたことは、どのようなことでしたか。
- ② 自分が見守られる立場だったら、どうしてほしいと思いますか。

### 【グループワーク2】

見守り基準をより良く活用するために見守りネットワークメンバーは何ができるでしょう。

次のフォーマットにしたがって、グループで話し合いましょう。(15分)

フォーマット：「\_\_\_\_\_ために 見守りネットワークメンバーが\_\_\_\_\_する。」

フォーマット例：「若い人が活動に参加するために見守りネットワークメンバーが小学校 PTA とかかわりを持つようにする。」

### 3. 倫理的配慮

研究対象となった参加者には第1回研修プログラム時に書面と口頭で本研究の趣旨、目的と方法を説明し、文書にて同意を得た。また、研究協力は自由意思にもとづくものであり、いつでも中止が可能であること、研究目的以外では得られたデータは使用しないことを説明した。なお、本研究は甲南女子大学研究倫理委員会の承認を得ている。

### 4. 調査・分析方法

各研修プログラムのグループワークや発表での対象者の発言内容をICレコーダーにて録音し、逐語録を作成した。なお、すべての対象者から録音の同意を得ることができた。

第1回研修プログラムの逐語録からは、「なぜK被告は周囲の人に助けを求められなかったのか」、「隣人であればどのように対応したか」、「見守りメンバーであればどのように対応したか」という内容にしたがって質的に分析を行った、できるだけ対象者の表現を活用し、コードをつけた。それらのコードをもとに、カテゴリ、テーマへと抽象化をすすめ、分類を行った。

第2回研修プログラムの参加者の意見については、逐語録を参考に、大まかにまとめた。

### 5. 研究結果

#### 1) 第1回組織育成研修プログラムのプロセス

第1回研修プログラムグループワークでみられた対象者の意見のうち、「なぜK被告は周囲の人に助けを求められなかったのか」という点について、表7に示す。K被告が周囲の人に助けを求められなかったテーマとして、「本人の特性」、「介護者の特性」、「地域のかかわりの特性」が挙げられた。

「本人の特性」では、「責任感が強く相談ができなかった」、「一歩踏み込んで相談することができなかった」、「男性は周囲に頼ることに抵抗がある」、「50代前半の人は周囲の人に言わない」などのカテゴリがみられた。

「介護者の特性」では、「介護をしていたら抱え込む」、「親が認知症であることを認めたくない」、「緊急な対応が必要であると認識できていなかった」などのカテゴリが示された。

「地域のかかわりの特性」では、「日頃のつきあいがこの家族になかった」、「地域のつながりが希薄だった」、「行政や専門職から適切な対応がなされなかった」、「地域に助ける仕組みがない」というカテゴリがみられた。

「隣人であればどのように対応したか」についてのテーマは、表8に示すとおり、「日頃からのつきあい」、「相手から拒否されたときのかかわり」、「緊急時の対応」、「近所としての関わりの限界」が挙げられた。

「日頃からのつきあい」に分類されたカテゴリとしては、「普段から近所同士、気にかけて声をかけあう」、「普段から近所同士、困りごとを助け合える関係をつくる」、「近所で見守る工夫をする」、「近所づきあいをしない人とは関わりにくい」が挙げられた。

「相手から拒否されたときのかかわり」に分類されたカテゴリとしては、「専門職、行政、民生委員らに相談する」、「高齢者本人と関わりをもつ」が挙げられた。

「緊急時の対応」では、「近所で気になることが起きたら一歩踏み込む」というカテゴリがみられた。

一方、「近所としての関わりの限界」として、「お節介といわれぬか躊躇する」、「近所の立場ではかかわれない」、「個人情報保護の問題があるのでかかわりにくい」、「介護者が息子なのでかかわりにくい」というカテゴリがみられた。

表7 第1回研修プログラムグループワークでみられた対象者の意見

:なぜK被告は周囲の人に助けを求められなかったのか

本人の特性	
責任感が強く相談ができなかった	一人で何とかしようという気持ちでどうにもならなかった
	責任感が強く近所に助けを求められなかった
一歩踏み込んで相談することができなかった	仕事をしていたので経済的に困っているといえなかった
	もう少し率直に訴えた方がよかった
男性は周囲に頼ることに抵抗がある	男性は人にはいえず他人に頼ることに抵抗がある
	男性は人に言うことができない
50代前半の人は周囲の人に言わない	50代前半の人は「人に迷惑をかけたくない」「恥ずかしい」という気持ちがある
	50代前半の人は声をかけても「大丈夫」という
介護者の特性	
介護をしていたら抱え込む	24時間介護をしていると抱え込んでしまう
	育ててもらった恩があり人に頼るのはどうもと思う
親が認知症であることを認めたくない	自分の母親が弱っていくのを認めたくなかったのではないか
緊急な対応が必要であると認識できていなかった	どこまで本人が緊急な状況であるか認識していたのかわからない
地域のかかわりの特性	
日頃のつきあいがこの家族になかった	働いていたら地域の人とのつながりがどうしても希薄になる
	気軽に話ができるような近所づきあいがなかった
地域のつながりが希薄だった	周囲の人も声をかけにくい
	昔はその地域が家族みたいであったが、今はすべてを打ち明けられない
行政や専門職から適切な対応がなされなかった	役所の生活保護申請で適切な説明がなされなかったのが問題である
	ケアマネージャーがもう少し上手に訴えることができたのだろうか
地域に助ける仕組みがない	情報交換がなくつなげる役割の人がいないと早期に発見できない
	民生委員の活動も独居なら行きやすいが家族からの拒否があると行きにくい

上記、ゴシック体での表示内容はテーマ、明朝体での表示内容はカテゴリ、斜体での表示内容はコードである。なお、表中のコードは、代表的なものを選択して示している。

表8 第1回研修プログラムグループワークでみられた対象者の意見

: 隣人であればどのように対応したか

日頃からのつきあい	
普段から近所同士、気にかけて声をかけあう	向こうが近所づきあいを嫌がっても「大丈夫ですか」としよつちゅう声をかける 隣の人に関心をもつという関わりを皆がやればよい
普段から近所同士、困りごとを助け合える関係をつくる	気になったら挨拶をして「どうですか」といえる関係をつくる 息子が「母親に何かあったらお願いします」と普段から頼める関係であったらよかった
近所で見守る工夫をする	独居高齢者には隣の人が見に行くという決めごとをする 近所の人や夜に電気がつくか関心をもつ
近所づきあいをしない人とは関わりにくい	自治会に入らない人はとりつく島がない 近所の人とはつきあわない人もいて困る
相手から拒否されたときのかかわり	
専門職、行政、民生委員らに相談する	自分でかかわれないときは専門職に訪問してもらう 民生委員や自治会などでその家に訪問する
高齢者本人と関わりをもつ	息子がバリケード張っていても留守の時に母親に声をかける
緊急時の対応	
近所で気になることが起きたら一歩踏み込む	緊急時は個人情報も関係なく火事の時のように家に入り込む 積極的に「お困りですか」という勇気をもたないといけない
近所としての関わり方の限界	
お節介といわれぬか躊躇する	すぐに行きたいがお節介ととられるのか、親切ととられるのかよくわからない
近所の立場ではかかわれない	声かけしても「大丈夫」と言われたらどうしようもない 手伝っても隣人としてできることは一時的で限界がある
個人情報保護の問題があるのでかかわりにくい	近所よりも見守りネットワークボランティアとしての方が伝えやすい
介護者が息子なのでかかわりにくい	近所の男の人とは家のことは話ができない 近所のお嫁さんとは介護のことを率直に話ができる

上記、ゴシック体での表示内容はテーマ、明朝体での表示内容はカテゴリ、斜体での表示内容はコードである。なお、表中のコードは、代表的なものを選択して示している。

「見守りメンバーであればどのように対応したか」についてのテーマは、表9に示すとおり、「見守り対象者へのかかわり方」、「地域の保健福祉資源との連携」、「地域での組織的な見守り体制」が挙げられた。

「見守り対象者へのかかわり方」に分類されたカテゴリとしては、「見守りを拒否されたときに一歩踏み込む」、「介護者が相談しやすいように配慮する」、「見守り訪問の方法を工夫する」、「独居高齢者以外にも目を向ける」、「高齢者が家族と同居している場合は気を遣う」、「予防的視点をもつ」が挙げられた。

「地域の保健福祉資源との連携」に分類されたカテゴリとしては、「見守りを拒否されたときに行政や地域包括支援センターに相談する」、「地域包括支援センターにまずは相談してみる」、「専門職や行政がかかわっていても地域で見守る」が挙げられた。

「地域での組織的な見守り体制」に分類されたカテゴリとしては、「見守り体制を組織的につくる」、「自治会を活用して高齢者の情報交換を行う」「近隣の人と協力体制をもつ」「地域の住民同士で声をかけあう」が挙げられた。

表9 第1回研修プログラムグループワークでみられた対象者の意見

: 見守りメンバーであればどのように対応したか

見守り対象者へのかかわり方	
見守りを拒否された時に一歩踏み込む	見守りは拒否されることから始まる 訪問では門前払いもあるので外で姿をみたときに声をかける
介護者が相談しやすいように配慮する	見守りメンバーに男性を入れて息子が話しやすいようにする 優しい息子なのだから皆で声をかける
見守り訪問の方法を工夫する	見守りメンバーが2人で訪問しお互い気づかないことを確認する 女性1人のときは男性だけで訪問しない方がよい
独居高齢者以外にも目を向ける	昼間1人になる高齢者にも目を向ける 親子で暮らしていると気がつかない
高齢者が家族と同居している場合は気を遣う	息子がいる場合はどこまでお世話してよいか気を遣う
予防的視点をもつ	2, 3年先は大丈夫かなと思う高齢者もいる
地域の保健福祉資源との連携	
見守りを拒否されたときに行政や地域包括支援センターに相談する	相手に踏み込めない時には役場や地域包括支援センターに相談する
地域包括支援センターにまずは相談してみる	何もなくてもよいのでまず地域包括支援センターに相談する 地域包括支援センターが対応してくれるとわかるので気軽に情報を伝えられる
専門職や行政がかかわっていても地域で見守る	ケアマネージャーや行政に既にお願した後も近所や見守りメンバーが目を離さない
地域での組織的な見守り体制	
見守り体制を組織的につくる	地域で助ける仕組みや組織がほしい 自治会や民生委員などで組織的に声かけを行う
自治会を活用して高齢者の情報交換を行う	自治会の班レベルなら住民の様子を把握できる 自治会の班長からの情報があれば動きやすい
近隣の人と協力体制をもつ	夜に電気がつかないなどの情報を近所の人からもらいたい 安否確認のサインがない場合、隣の人に見に行ってもらおう
地域の住民同士で声をかけあう	周囲が関心をもつことで本人も支えられている感覚をもつ 散歩していた人を見かけなくなったら声かけをする

上記、ゴシック体での表示内容はテーマ、明朝体での表示内容はカテゴリ、斜体での表示内容はコードである。なお、表中のコードは、代表的なものを選択して示している。

## 2) 見守りチェックシート（基本編）の試行状況

見守りチェックシート(基本編)は、計 38 事例分を回収することができた(図1)。チェック項目すべての12項目が「いいえ」であったものが 13 事例、1項目以上が「わからない」であったものが 11 事例、1項目以上が「はい」であったものが 15 事例であった。これらのシートの記述内容について、地域包括支援センターのスタッフならびに研究者で検討した結果、「そのまま様子をみる」としたものが 21 事例、「地域包括支援センターで状況を確認する」としたものが 18 事例あった。

地域包括支援センターで確認した事例の詳細な内容について、表 10 と表 11 に示す。確認した結果、今後、追跡する必要性がある事例は 3 事例であった。いずれの事例も、過去に地域包括支援センターが実態把握のため、訪問は行っていたが、その後かかわりのない事例であった。また、表 11 の ID 3 の事例については、チェックシートを記入した住民の判断で「もう少し様子をみたいので詳細な情報は伝えられない」とのことであったが、今後の経過によっては地域包括支援センターが追跡する必要性があるとした。

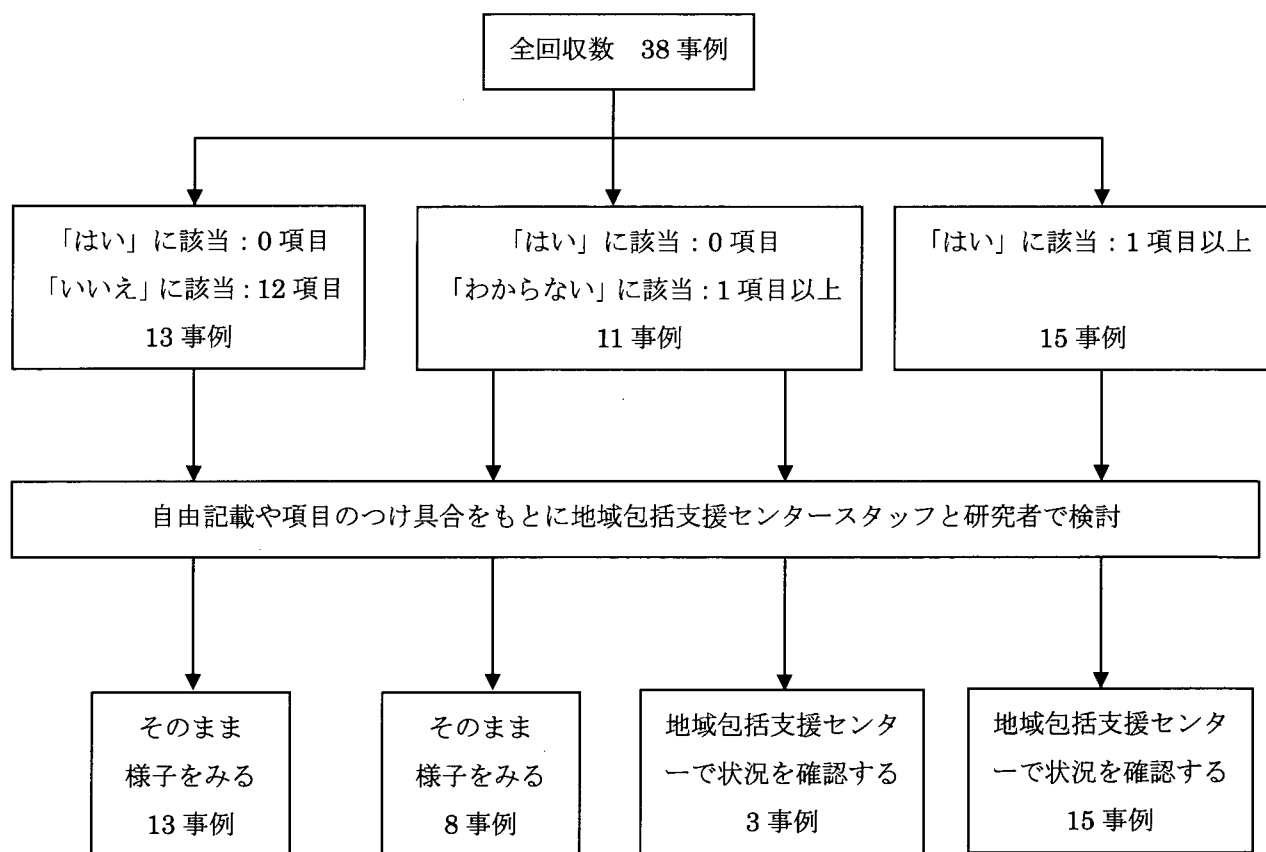


図1 見守りチェックシートの試行状況



表 10 地域包括支援センターで確認した事例

: 見守りチェックシート項目の「わからない」に1項目以上ある事例

ID	事例の属性	状況	追跡の必要性
1	女性・90代 一人暮らし	離婚した息子が一緒に住んでいる。平成18年度実態調査で包括から訪問したがその後かかわりはない。	○
2	女性・80代 子と二人暮らし	平成21年2月まで六尾の郷のケアマネージャーが担当し、ホームヘルプサービスを利用していた。現在入院中である。	×
3	女性・90代 一人暮らし	閉じこもりがちだが、他社のケアマネージャーが担当し、ホームヘルプサービスとデイケアを利用中である。	×

表 11 地域包括支援センターで確認した事例

: 見守りチェックシート項目の「はい」に1項目以上ある事例

ID	事例の属性	状況	追跡の必要性
1	女性・80代 一人暮らし	消費者被害の経験がある。平成17年度実態調査で包括から訪問したがその後かかわりはない。	○
2	女性・70代 一人暮らし	情報提供者より、ヘルパー利用中であるとのことだが、市に確認すると介護保険サービスは利用していないときく。平成17年度実態調査で包括から訪問したがその後かかわりはない。	○
3	不明・70代 一人暮らし	情報提供者より、「もう少し様子をみたいので詳細は伝えられない」とのことである。日中から飲酒している様子である。	△
4	男性・80代 夫婦世帯	福祉用具レンタルの介護保険サービスを利用中であり、包括がかかわっている。	×
5	女性・70代 家族と同居	六尾の郷のケアマネージャーが担当でサービスを利用している。	×
6	男性・70代 子と二人暮らし	足が不自由である。要支援の認定を最近受け、包括が担当している。	×
7	女性・70代 子と二人暮らし	六尾の郷のケアマネージャーが担当でサービスを利用している。	×
8	夫婦・60代 夫婦世帯	特定高齢者教室に夫婦で参加している良好な関係である。	×
9	女性・90代 一人暮らし	他社のケアマネージャーが担当し、ホームヘルプサービスとデイケアを利用中である。	×

10	女性・80代 夫婦世帯	予防給付で包括が担当している。	×
11	女性・80代 子と二人暮らし	住民から相談があり、包括から定期的に訪問している。	×
12	男性・80代 一人暮らし	六尾の郷の小規模多機能サービスを利用中である。	×
13	女性・80代 一人暮らし	予防給付で包括が担当している。	×
14	女性・90代 一人暮らし	六尾の郷のケアマネージャーが担当でサービスを利用している。見守りメンバーによるボランティアもかかわっている。	×
15	女性・90代 子と二人暮らし	六尾の郷が主体となっているリフレッシュ教室に参加している。周囲からのインフォーマルな見守りも手厚くうけている。	×

## 2) 第2回組織育成研修プログラムのプロセス

第2回研修プログラムのグループワーク1でみられた対象者の意見の主な内容を抜粋したものを表12に示す。まず、「ミニ講義を聞いて感じたことはどのようなことでしたか」という問いに対する意見については、見守りチェックシートを活用しなかったものと活用したもので分類した。

見守りチェックシートを活用しなかった理由として、「対象となる高齢者や周囲の状況について心配がないため、見守りチェックシートを活用しなかった。」という意見が挙げられた。

また、見守りチェックシートを活用した感想として、「見守りの基準がわかり、便利だった。」、「見守りの視点をご近所と共有でき、気づきの観点が增える。」などの意見がみられた。

「見守られる立場だったらどうしてほしいと思いますか」という問いに対する意見については、「見守りをしてほしい。」という意見がみられたが、一方で、「友人の負担にならないか心配である。」、「日頃から近隣と仲良くしておく必要がある。」などの心配もみられた。また、「見守りはしてもらえない。」という意見もみられた。

グループワーク2でみられた「見守り基準をより良く活用するために見守りメンバーに何ができるか」という問いに対する各グループの意見は表13に示すとおりである。各グループで、高齢者に生き甲斐を感じてもらうこと、見守りネットワークを広く知ってもらうこと、安否確認のしくみができること、高齢者以外の多くの人を見守ってもらうことなどを目標に具体的な方法が示された。中でも、見守りネットワークを広く知ってもらうことを目標として挙げたグループは、Bグループ、Dグループ、Eグループと5グループ中、3グループを占めていた。

表 12 第2回研修プログラムグループワーク1でみられた対象者の意見

ミニ講義を聞いて感じたことはどのようなことでしたか。(一部抜粋)
<b>見守りチェックシートを活用しなかった</b>
高齢者自身は気になるが、家族や友人の見守りがあるので見守りチェックシートは活用しなかった
高齢者の家族が心配ない状態なので見守りチェックシートを活用しなかった
高齢者自身が心配ない状態なので見守りチェックシートを活用しなかった
<b>見守りチェックシートを活用した</b>
見守りの基準がわかり便利だと感じた
チェックできるのは外から見てわかる項目である
チェック項目は多くない方が良く適切だった
チェック項目を見て家の中の様子を考えた
見守りの視点をご近所と共有でき、気づきの観点が増える
<b>見守られる立場だったらどうしてほしいと思いますか。</b>
<b>見守りをしてほしい</b>
話し相手になってほしい
できていたことができなくなったら声をかけてほしい
ちょっとしたことをお願いしたい
来てほしい思いと来てほしくない思いがあり
<b>見守りをしてもらうときに心配である</b>
友人の負担にならないか心配もある
夫は人付き合いができないので心配である
日頃から近隣と仲良くしておく必要がある
<b>見守りはしてもらえない</b>
お金の心配は、地域にはしてもらえない
施設に入るか、子どもの世話になるしかない

表 13 第2回研修プログラムグループワーク2でみられた各グループの意見

フォーマット：「\_\_\_\_\_ ために見守りネットワークメンバーが \_\_\_\_\_ する」

グループ名	内容
A グループ	高齢者に生き甲斐を感じていただくために 見守りネットワークメンバーが訪問してその高齢者の今までの人生の知恵や若いときの体験などのお話を聞く。
B グループ	見守りネットワークを PR するために学校行事に参加する。 独居高齢者の方に小学生の下校時に声かけ訪問をするしくみをつくる。 70 歳以上の独居高齢者の新聞代を市に援助してもらい、新聞配達を通じた安否確認のしくみができるように行政に願います。
C グループ	高齢者以外の多くの人を見守るために 見守りネットワークメンバーが自治会を中心とした各諸団体(老人会、PTA、婦人会等)と連携する。
D グループ	見守りネットワークを地域で知ってもらうために子ども 110 番のような旗をつくり、ビラや回覧板で見守りネットワーク活動を知らせる。 世代間交流ができるように見守りネットワークメンバーが積極的に学校行事等に参加する。
E グループ	砂川見守りネットワークを広く知ってもらい、40 代や 50 代の参加者を増やすために、見守りネットワークメンバーが自治会等を通じて砂川見守りネットワークの活動報告を行う。

## 6. まとめ

### 1) 組織育成研修プログラムの実施結果と課題

本研究の特徴は、見守りネットワークメンバーの住民が、地域高齢者への見守りを行うことの重要性を認識し、その見守り基準と方法について考えてもらうことを目的に作成した組織育成研修プログラムを2回にわたって実施し、対象者の意見や反応などのプロセスを記述したことである。

第1回研修プログラムでは、介護心中に至った事例をDVDにて鑑賞し、プログラムに沿ったグループワークを行った。グループワークでは、介護者の息子がなぜ周囲に助けを求めることができなかったかという点については、介護者の立場や考え方を共感し、地域のかかわりが必要であるとの意見が導かれていた。隣人や見守りメンバーであればどのように対応したかという点については、近隣とは日頃からのつきあいが重要であり、緊急時には一歩踏み込んだかかわりが必要との意見がみられた一方、近所としての関わりには限界があるとの意見がみられた。見守りメンバーの対応については、見守り対象者への具体的な関わり方について意見がみられ、また地域の中で組織的に体制づくりをする必要性が提案されていた。

上記いずれの意見も、地域高齢者への見守り活動の必要性をみとめる肯定的な内容であった。本組織育成研修プログラムでは、見守りチェックシートを住民に実際に実施してもらうことを意図していたが、第1回研修プログラムのグループワークは、見守りチェックシート試行を取り組むにあたって、住民が